

そよかぜだより

2014 7月号

そよかぜ歯科医院のURL
<http://soyokaze-dc.com>



●7月(文月)



梅雨明けも間近となり、日ごとの暑さが増してきました。この時期、気を付けていただきたいのが熱中症です。熱中症とは、室温や気温が高い中での作業や運動により、体内の水分や塩分などのバランスが崩れ、体温の調節がうまくできなくなってしまうことを言います。熱中症の主な症状は、めまい、頭痛、吐き気、だるさ、意識障害などが挙げられます。

7月に入り、海水浴やプールやキャンプなど、炎天下、長時間外で過ごす機会が多くなると思います。こまめな水分補給や日陰の利用、帽子の着用などの熱中症対策をこつこつと夏の楽しさに出きたくて準備しておきましょう。

スタッフ研修旅行

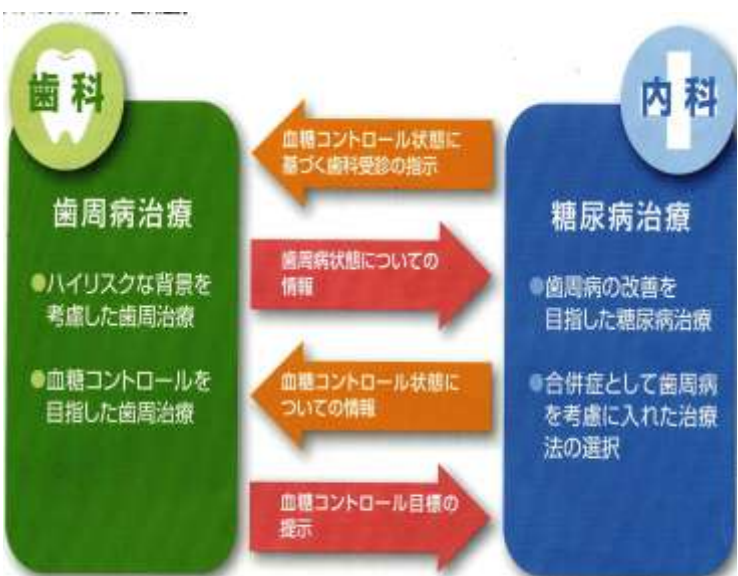
6月18～20日までお休みをいただき研修旅行に行ってきました。多くの貴重な経験をさせて頂き、スタッフ一同より一層知識を深める事ができた研修旅行となりました。



医科と歯科の連携治療

前回、歯周病を積極的に行うことで全身疾患の予防がとくに生涯かかる治療費の削減にも繋がる事ができるとお話しました。今回は、医科と歯科の連携についてお話ししていきます。

近年、高齢化が進むにつれて、健康長寿が増えていないのが現状です。すなわち、有病高齢者が増えております。特に歯周病は成人の80%以上が罹患している疾患です。この歯周病の原因菌は糖尿病、胃潰瘍、脳梗塞、リウマチの発症に深く関与していると言われています。そのため、医科と歯科が一体となり国民の健康に貢献し、医療費の削減を目指していきます。左の図は、医科と歯科との連携を糖尿病を一例として示しています。歯科医は歯周病の状態を提供し、内科医からは、血液状態と投薬状況をはじめとする全身情報を提供し頂く場合があります。



参照：オーラルヘルスの全身と健康

今回の全身疾患により使用されている薬剤が歯科疾患の弊害をもたらす場合があります。その場合、医科と歯科の協議の上、一時的な薬物服用の休薬や変更なども行う場合があります。このように医科と歯科の連携から個々にあった最善の治療を講じます。

1つは、この歯科治療は、歯科疾患を慢性疾患・生活習慣病として予防・病因の除去を中心として口腔内を生涯に渡って見守り、ケアする事による口腔の健康だけでなく、全身の健康を予防する事が出来るといえます。

院長より

梅雨明け間近となり、大気の変化も激しいこの頃の頃です。傘を持ってお出かけする日が多くなると思います。先日6月としては過去最大級の台風が襲い、沖縄九州を中心とする多くの被害がとれたようです。心からお見舞い申し上げます。

梅雨前線が北上し、太平洋高気圧が張り出すと夏本番の到来です。この時期は最も食中毒、熱中症など、夏風邪が多い季節です。食品のあつかいはもちろん、室内の温度、湿度の設定あるいは水分摂取には留意する必要があります。

7月に入り、梅雨明けも間近となり、歯周病の発症から1年の月日がたちました。今回も、歯周病と体の関係を主にお伝えしてまいりましたが、次回からはお口の審美治療についてお伝えいたします。

今後新しい話題を扱うにつれて、皆様様に「歯科の区別をわかってほしい」と思っています。よろしくお願いいたします。

歯磨きペースト新商品

永年、ご愛用頂いたアロナールの製造中止により
歯周病安定期向けの歯磨きペーストが入りました！



SP-Tジェル

☆3つの薬用成分を配合

- ・IPMP：菌層の内部まで浸透・殺菌します。
- ・抗プラスミン：歯肉の炎症を抑えます。
- ・ビタミンE：歯肉の血行を良くします。

☆高粘性ジェルが歯周ポケットに長くとどめます。

☆研磨剤無配合で歯肉を傷つけません。